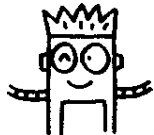


## でしま 長崎の出島は、どんな所だったの



おおぎがた  
オランダ人を集め住ませた扇形の人工島だよ。

一般の日本人が出入りできない、<sup>おおぎがた</sup>扇形の人工島

出島は、長崎市内から海につき出してつくられた、人工の島です。形は扇形で、海側は約215メートル、陸側は約175メートル、はばは約64メートル、面積は約1万3117平方メートルありました。周りはへいで囲まれ、長崎市内とは、1本の橋で結ばれていました。この橋には番所があって、一般の日本人の出入りを禁止することを書いた、<sup>こうきつ</sup>高札が立っていました。島の周りの海中には、<sup>くい</sup>くいが打たれ、このくいより中に入ってはならない、と定められていました。

いろいろな建物・<sup>しせつ</sup>施設があった

島内には、オランダ商館長が住む建物（<sup>カピタンベヤ</sup>甲比丹部屋）、商館の<sup>じゅうぎょういん</sup>従業員が住む建物、船員が寝泊まりする施設、倉庫、<sup>つうじ つうやく</sup>通詞（通訳）用の施設、日本人役人用の施設、花だん、菜園、貨物の積み下ろしをする荷あげ場、貨物を調べる門などがありました。何度も火災にあいましたが、<sup>ばくまつ</sup>幕末には65の建物がありました。

オランダ人が出ることも、制限された

出島は、1634年に<sup>えどばくふ</sup>江戸幕府が、ポルトガル人を收容するために、長崎の25人の商人に命じてつくらせたもので、初めは<sup>つきしま</sup>「築島」とよばれました。ポルトガル人がいなくなると、1641年に、<sup>ひらど</sup>平戸のオランダ商館を出島に移転させ、年に銀55貫の貸し賃を取りました。これ以後、オランダ人が出島を出ることは、原則として禁止され、出ることが許されたのは、商館長が江戸に行くときや、「長崎くんち」のお祭りなどのときだけでした。このような状態は、1855年にオランダと日本が<sup>にちらんかりじょうやく</sup>条約（日蘭仮条約）を結ぶまで、続きました。